



証券コード: 7707

PSS 会社説明会

PSSは、本年2月28日、上場10周年を迎えることができました。
皆様からの格別なるご支援に対し、社員一同、心より感謝申し上げます。

2011年4月23日

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

[URL : www.pss.co.jp](http://www.pss.co.jp)

Contents

○「東北地方太平洋沖地震」の影響に関して

I. PSS会社概要

II. 業績の概況

- 当期(第26期)第2四半期業績概況

III. バイオ市場の進展とPSS事業施策

- 診断市場・分子診断市場の成長予測

- PSSの全自動解析装置

- 多様化する市場ニーズへの対応

「東北地方太平洋沖地震」の影響に関して

(被害状況)

- PSS本社(千葉県松戸市)では、大きな揺れを感じたが、人的物的被害はなし。
- 東北(秋田、岩手)にあるPSSの主力製造委託会社は、それぞれ内陸に位置しており、津波被害はなく、地震により工場の壁と天井が一部破損した程度。製造中の製品の損壊もなく、ほぼ日程通りの生産ができる状況。

(事業への影響)

- 地震、原発事故の影響により、一部の部品、原材料に供給不足が発生しているが、生産への影響は軽微な状況。
- 海外向け出荷に関して、地震発生当初、物流網の混乱の影響を受け、遅れが発生したが、こうした問題は、ほぼ解消している。

(被災地への支援)

- 被害の大きかった地域に生産拠点をもち企業として、救済・復興への支援として300万円の義援金を岩手県へ寄付。
- 遺伝子検査等各種測定システムを開発・製造する企業として、PSSの装置・技術を通じた支援。

○「東北地方太平洋沖地震」の影響に関して

I. PSS会社概要

II. 業績の概況

■当期(第26期)第2四半期業績概況

III. バイオ市場の進展とPSS事業施策

■ 診断市場・分子診断市場の成長予測

■ PSSの全自動解析装置

■ 多様化する市場ニーズへの対応

I. 会社概要：PSSとは？

- 「バイオテクノロジー」と「ものづくり」を融合させ、バイオ分野へ自動化システムを導入
- 製品の80%以上がOEM製品として海外へ輸出、大手とのOEMビジネスで成功
- 主要売上構成は装置、プラスチック消耗品、スペアパーツ、試薬
- 世界特許のMagtration[®]技術をコアに、献血検体のNAT検査で実績。新型インフルエンザ、警察の鑑識等に導入された全自動核酸抽出装置(OEM製品)を供給
- 遺伝子検査のさらなる普及に向け、抽出から解析工程までを自動化した「全自動遺伝子解析装置」の実用化に向け開発中

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
Precision System Science Co., Ltd.

住所：千葉県松戸市上本郷88番地

代表者：代表取締役社長 田島 秀二

設立： 1985年7月17日

資本金： 2,217百万円

売上高： 5,637百万円(2010年6月期)

従業員数： 111人(派遣社員・パート等を含む)

子会社： ドイツ及び米国に海外子会社

UBR、PSSキャピタル他

上場市場： JASDAQスタンダード

証券コード： 7707

1992-94年 ダイナボット社(現アボットジャパン)等と提携して免疫検査システムを開発

1995年10月 特許技術 **マグトレーション・テクノロジー** を応用したDNA自動抽出装置製造に成功

1996年8月 OEM契約によるグローバル展開が始まる

2001年2月 ナスダック・ジャパン(現JASDAQ市場)上場

2001年7月 ドイツ、アメリカに子会社設立

2006年7月 投資子会社、PSSキャピタル、バイオコンテンツファンドLLP設立

2009年9月 製造委託会社NPS(株)に33.4%出資

2010年10月 JASDAQスタンダード市場に移行

PSS製品 (PSSブランド製品/OEM製品)

装置・システム

DNA自動抽出装置



PSSブランド製品



タンパク質自動精製装置、他



免疫診断装置

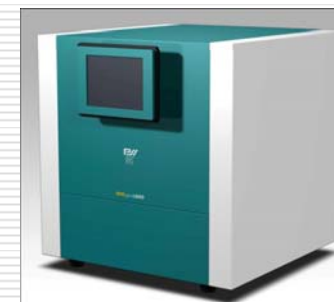
プラスチック・消耗品



試薬



全自動解析装置
(試作完成、装置評価中)



CellFree Sciences

OEM向け製品

三菱化学メディエンス株式会社

PSSの技術的強みと実績は？

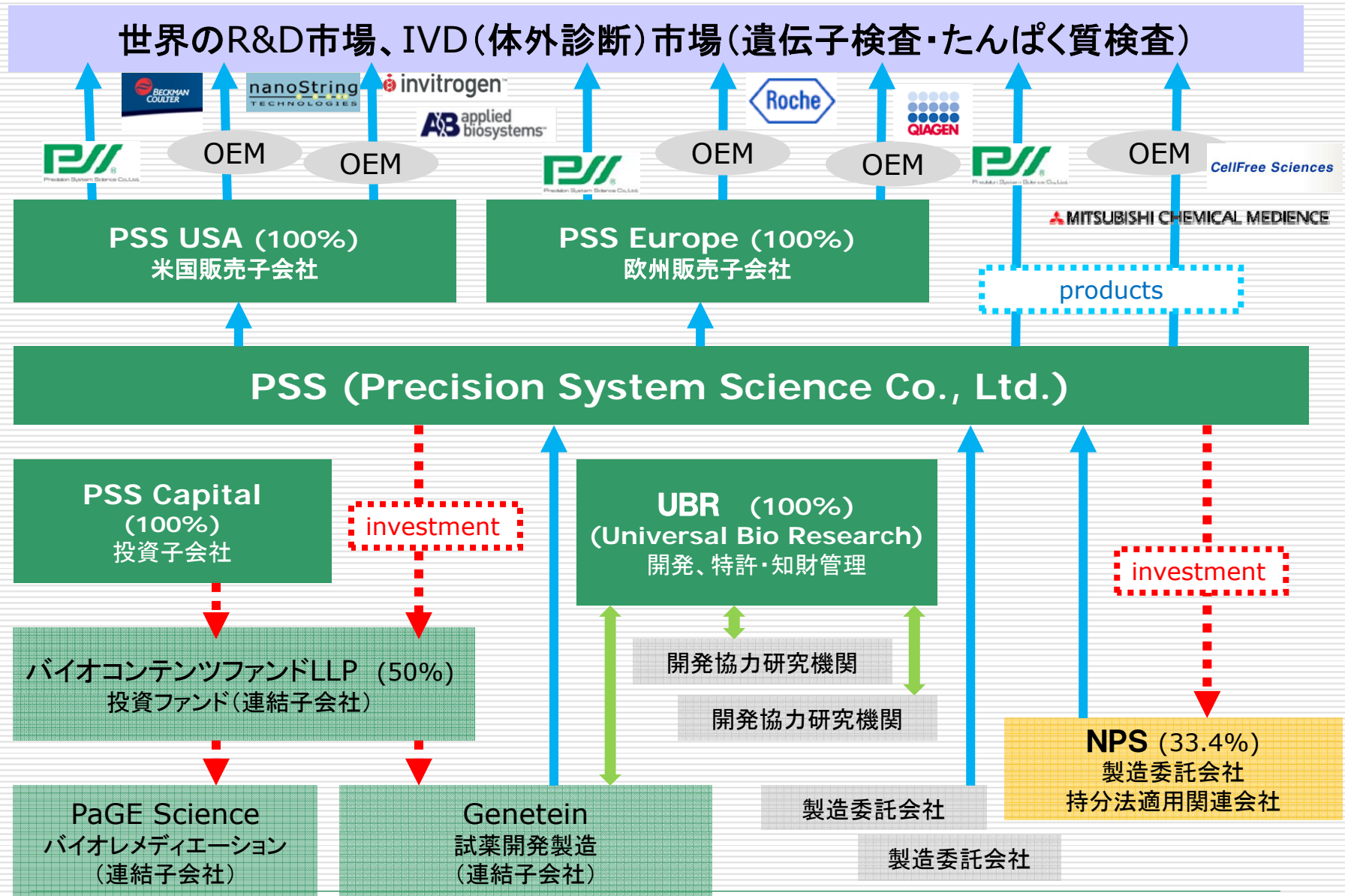
- (世界市場で評価) 国際特許Magtration®技術をベースにしたPSSのDNA自動抽出装置は世界のデファクト・スタンダード。その信頼性は、ロッシュ、キアゲン、ベックマン・コールター、三菱化学メディエンス、ライフテクノロジーズ(インビトロジェン・ABI)といったグローバル企業とのOEM契約で実証されています。



- (NAT検査での実績) 1999年日赤が世界に先駆けて導入し、年間600万件にのぼる献血検体のHIV、HCV、HBV同時スクリーニングを行ったNAT検査での精度と信頼性。(現在、PSS製装置の稼働は終了しております)



PSSグループの組織・事業展開図



○「東北地方太平洋沖地震」の影響に関して

I. PSS会社概要

II. 業績の概況

■ 当期(第26期)第2四半期業績概況

III. バイオ市場の進展とPSS事業施策

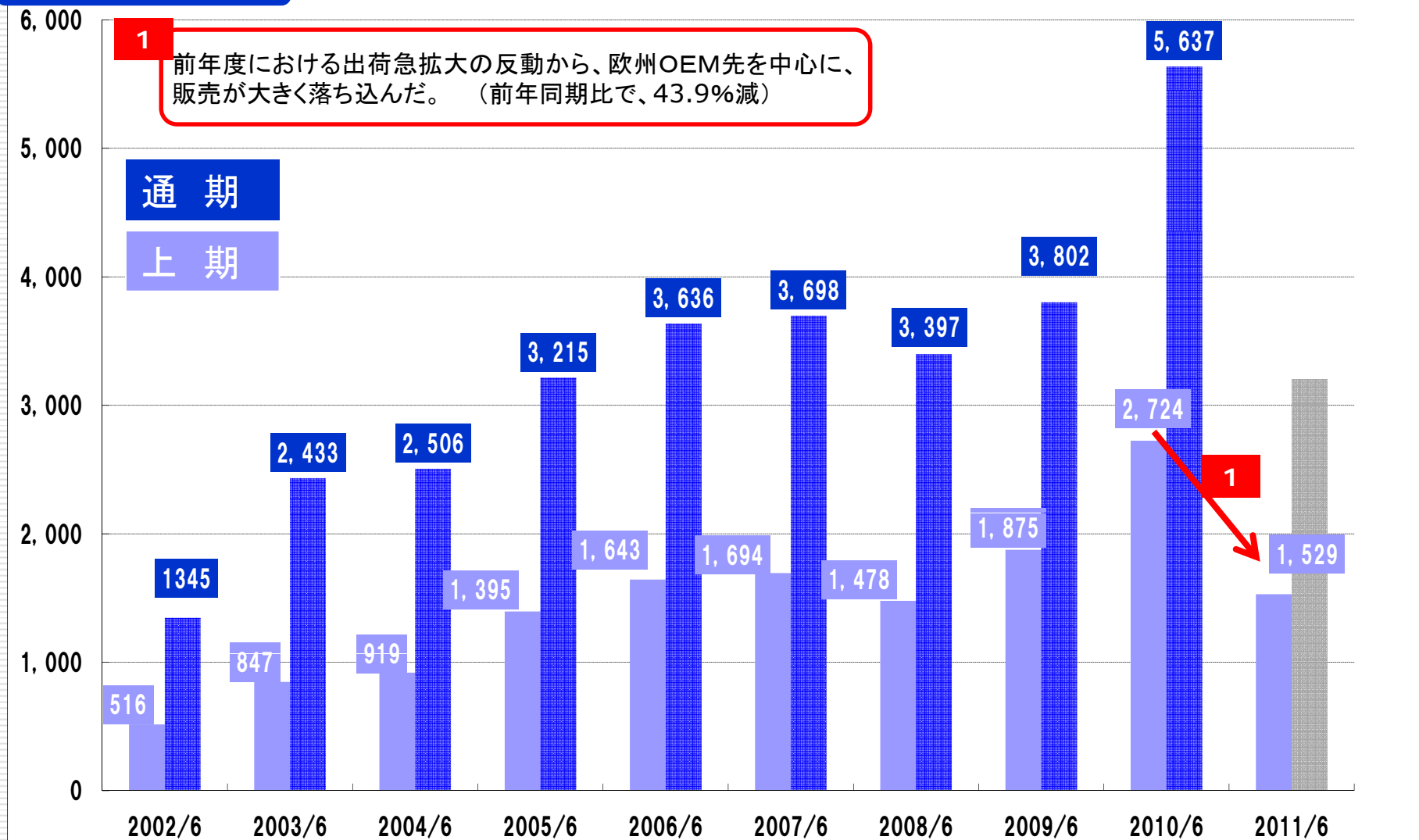
- 診断市場・分子診断市場の成長予測
- PSSの全自動解析装置
- 多様化する市場ニーズへの対応

II. (第26期第2四半期)決算概況

- **(販売低迷)** 前期(第25期)、新型インフルエンザ向け遺伝子検査需要が高まり、装置、消耗品の販売が急拡大したことの反動から、今期売上が大きく減少した。欧州OEM先で、過剰在庫が発生、調整に時間を要した影響が大きい。
- **(今後の見通し)** 今後は、製品ごとに差はあるものの、第2四半期を底に、販売の回復が見込まれている。
- **(米国向けは好調)** 欧州向け販売が低迷した一方、米国OEM、三菱化学メディエンス向け、及び自社販売が拡大。米国向けは上半期として、過去最高の販売実績。
- **(新事業分野での展開)**
 - ①全自動解析装置開発の進捗、②新規自動化装置開発案件、③次世代シーケンサー前処理での提携、④インドにおける抽出試薬製造等

売上高推移(上期・通期)

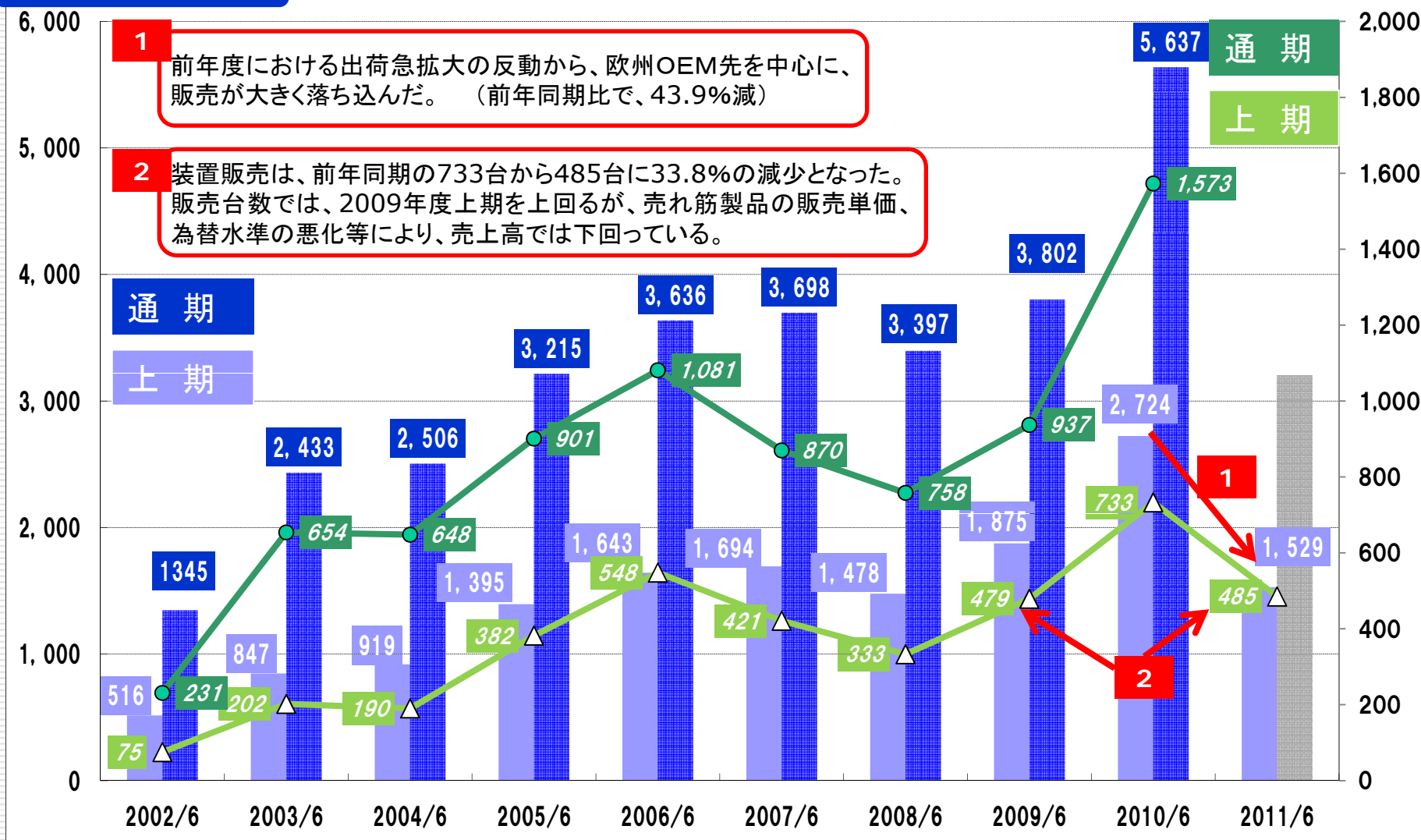
売上(百万円)



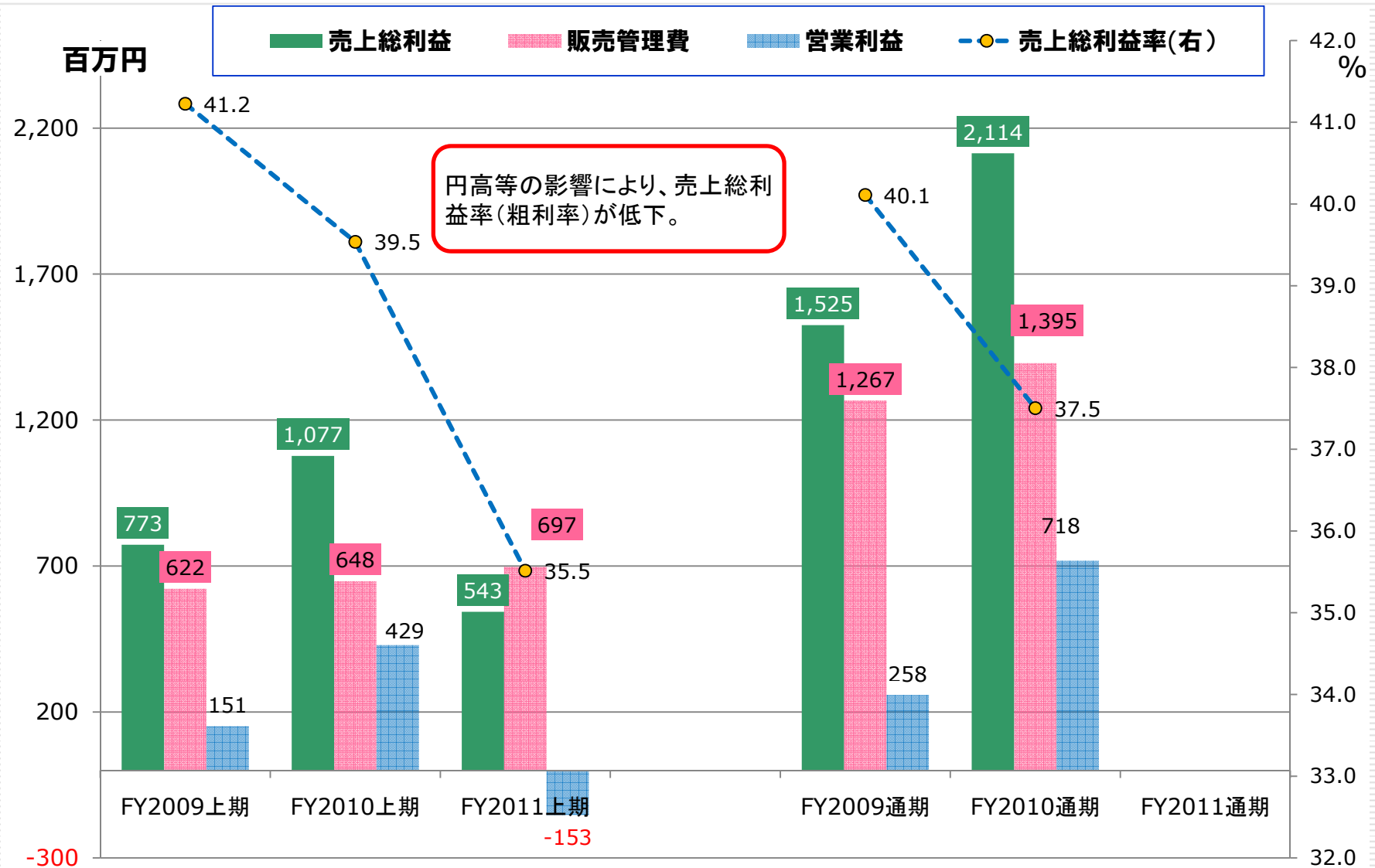
売上高・装置出荷数推移(上期・通期)

売上(百万円)

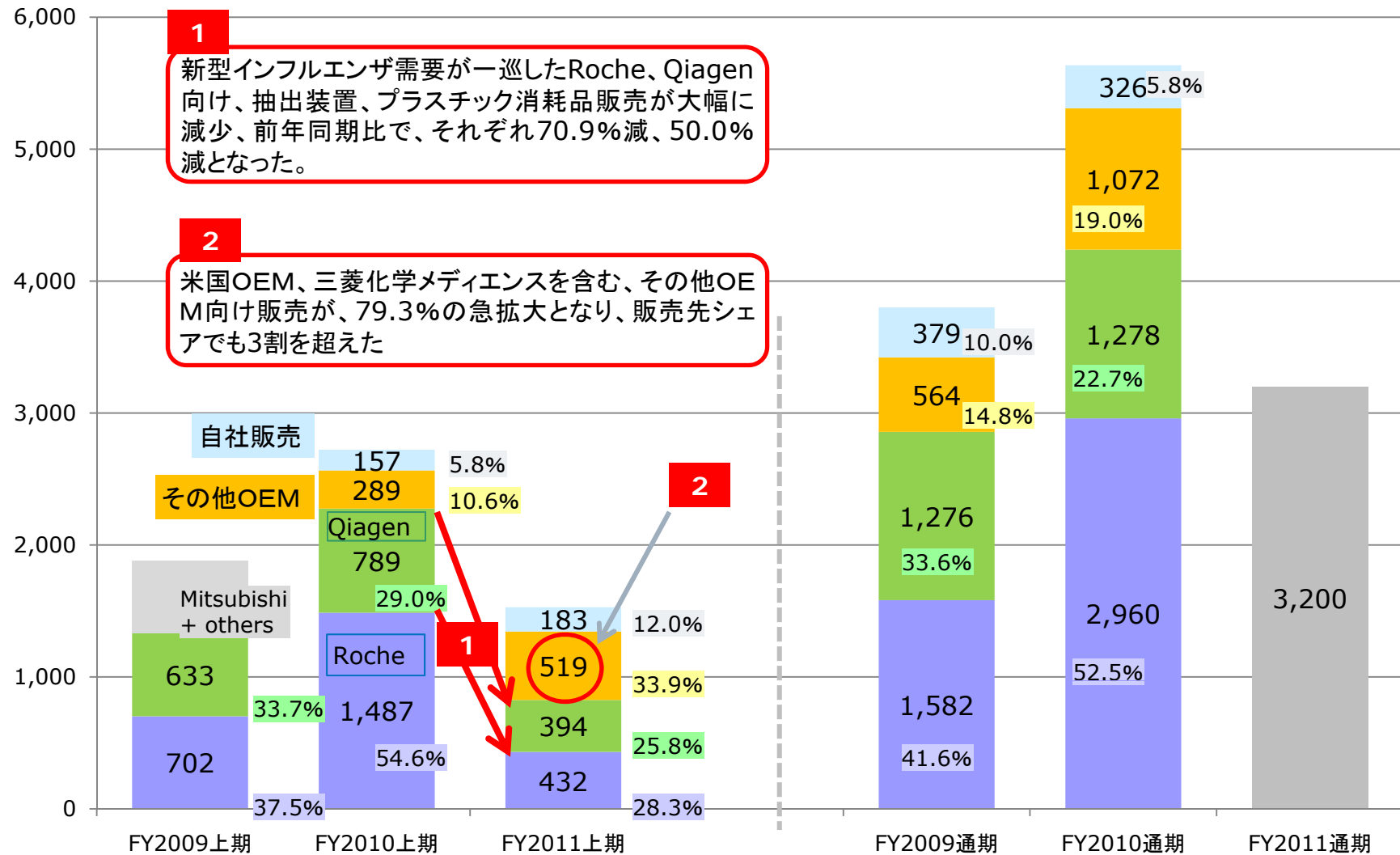
装置出荷数(台)



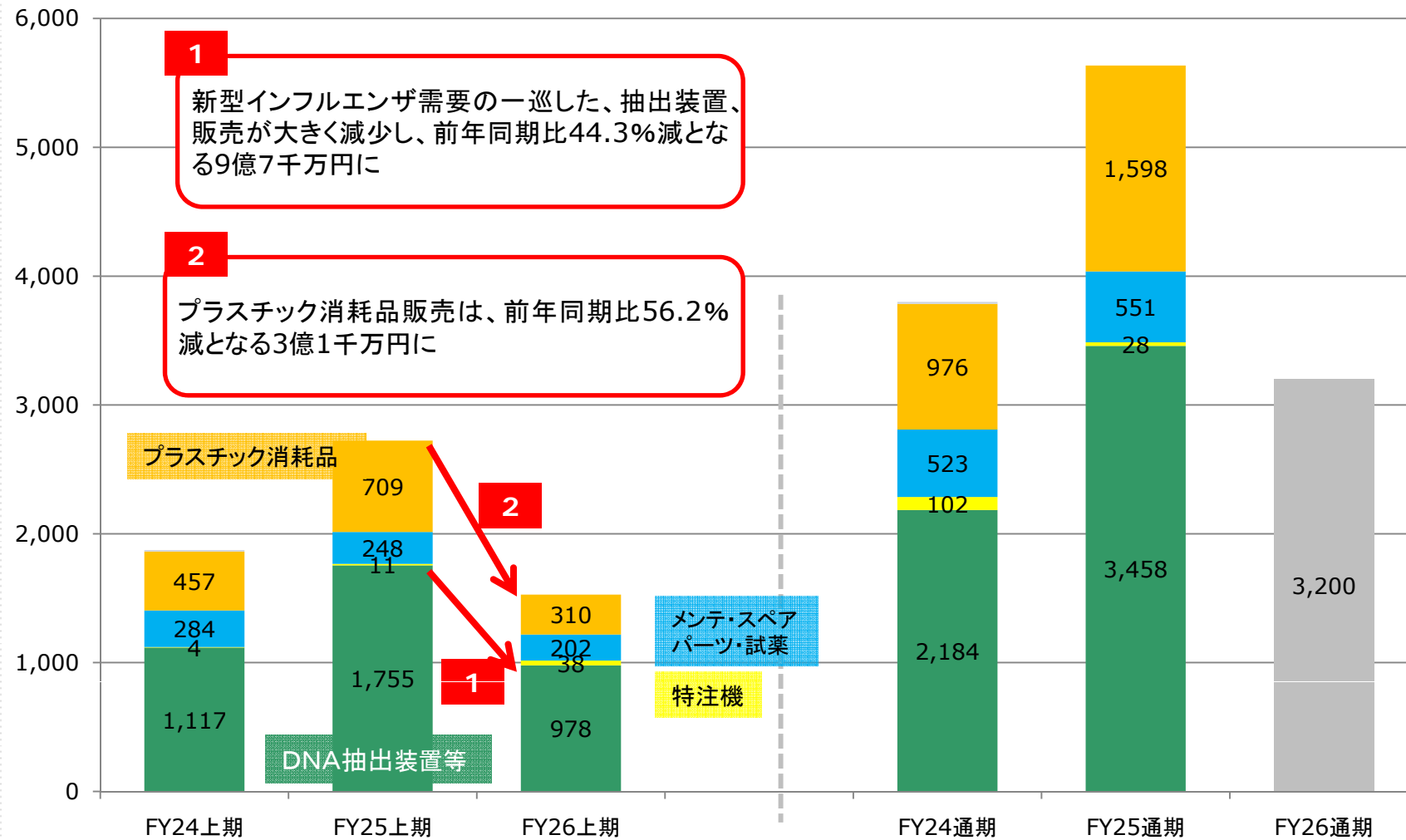
売上総利益・販売管理費・営業利益



取引先別販売状況(上期・通期)



製品区分別販売状況(上期・通期)



PSS 主要3社実績

1

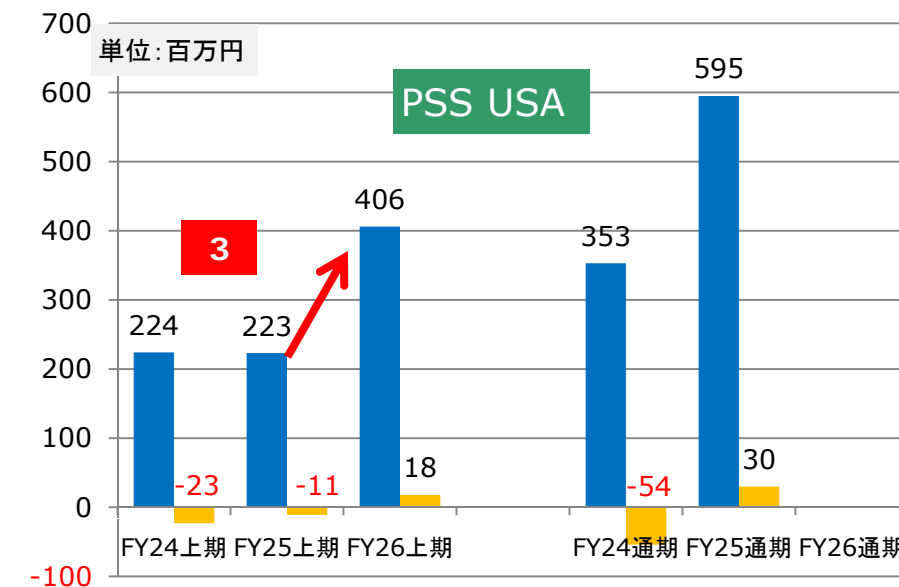
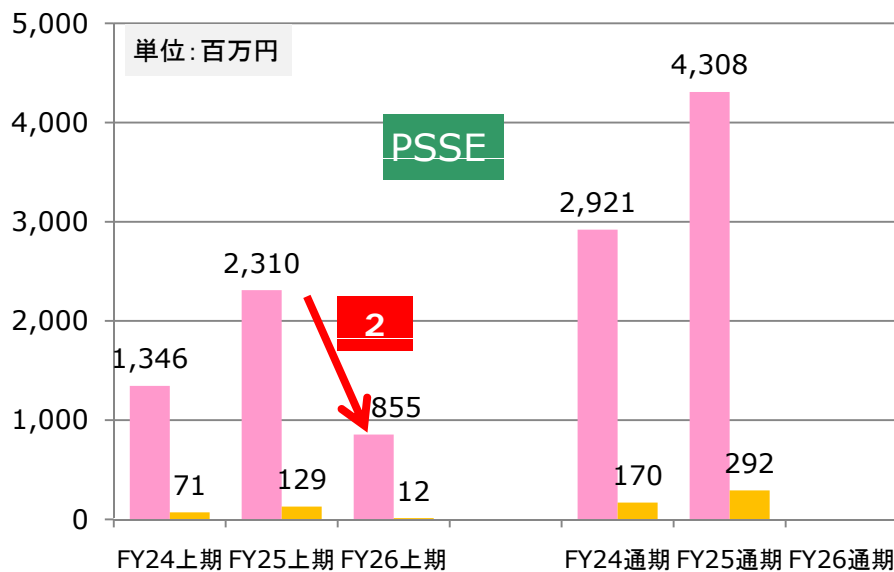
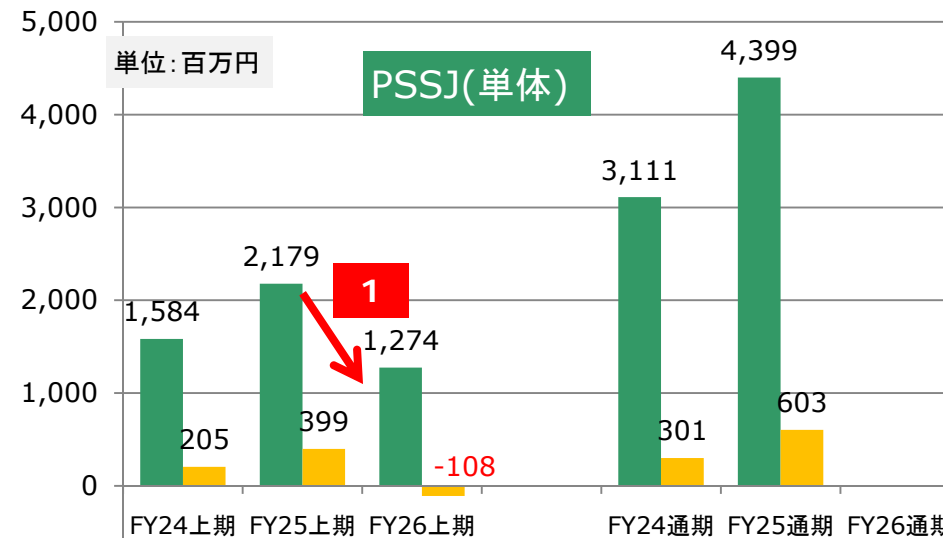
2

欧州OEM向け抽出装置、プラスチック消耗品販売が大きく落ち込んだ影響で、PSSJ、PSSEの売上高が大幅に減少、PSSJは営業赤字に、PSSEの営業黒字も縮小した。

3

一方、ライフテクノロジーズ社、ベックマンコールター社、ナノストリング社など米国OEM向け出荷の好調なPSS USAは業績を拡大、上期では初の営業黒字を計上した。

売上高&営業利益



ユーロ/円、ドル/円推移



第2四半期業績と通期業績見通し

第2四半期業績（2010年7月1日～2010年12月31日）

単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2011年6月期第2四半期(A)	1,529	-153	-162	-158	-1,731.32円
2010年6月期第2四半期(B)	2,724	429	409	363	8,495.09円
増減率(B)/(A)	-43.9%	----	----	----	----
期初業績予想(8月13日)	2,200	90	80	50	547.89円

通期業績（2010年7月1日～2011年6月30日）予想

単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2011年2月4日予想修正(A)	3,200	-260	-280	-260	-2,849.00円
前期(2010年6月期)(B)	5,637	718	653	549	12,647.69円
増減率(B)/(A)	-43.2%	----	----	----	----
期初業績予想(8月13日)	4,400	180	160	100	1,095.77円

■下期の為替レートは、1ユーロ=110円、1ドル=80円で算定

○「東北地方太平洋沖地震」の影響に関して

I. PSS会社概要

II. 業績の概況

■当期(第26期)第2四半期業績概況

III. バイオ市場の進展とPSS事業施策

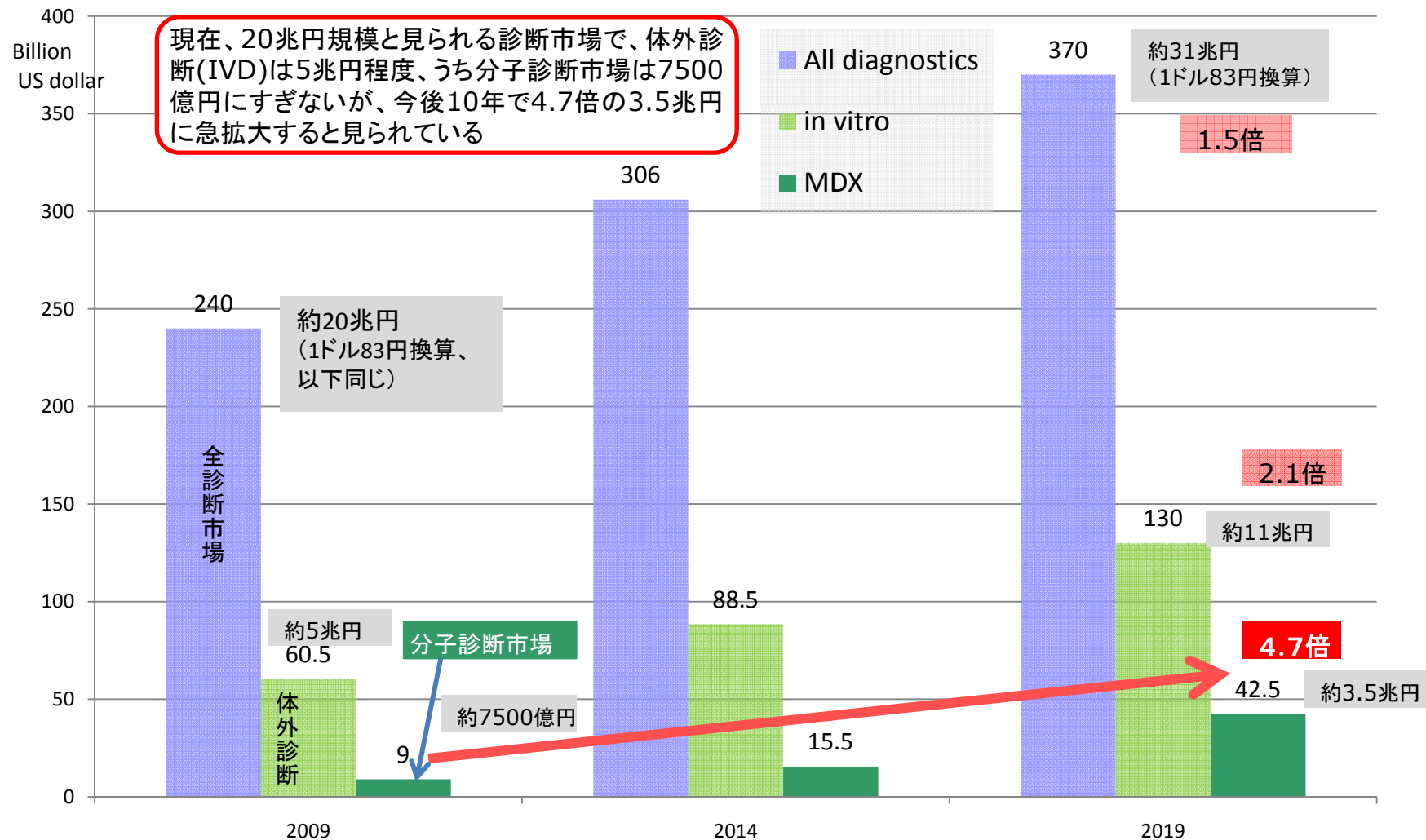
- 診断市場・分子診断市場の成長予測
- PSSの全自動解析装置
- 多様化する市場ニーズへの対応

III. バイオ市場の進展とPSS事業施策

現状認識

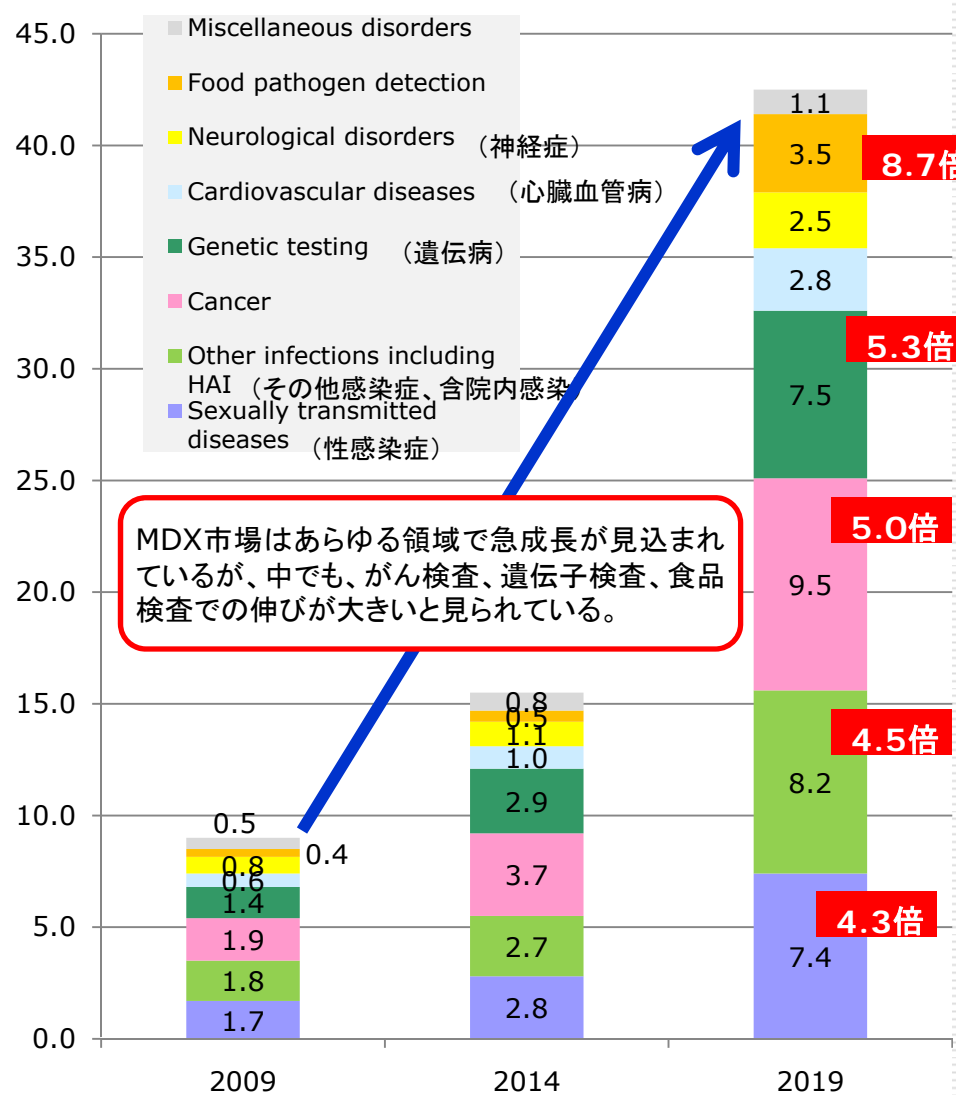
- **(成長市場)** PSSのターゲット市場である体外診断市場は、今後10年間で2倍以上の成長が見込まれている。中でも、分子診断市場は、10年で4倍以上の急成長が期待されている。
- **(全自動化の潮流)** PSSは、一貫して自動化を追求してきたが、最近、欧米先進市場で、全自動解析装置の出展が相次ぐなど、「自動化」が、明らかな潮流、現実であることを確認。
- **(PSSの優位性)** 他社の自動化装置には、それぞれ弱点もある。PSSの全自動解析装置は、信頼性の高いMagtration[®]技術による自動化思想をベースにしており、取引先からの評価、期待も高く十分な勝算がある。
- **(前処理の再認識)** 次世代シーケンサーなど解析技術の高度化で、精度を含め前処理工程の重要性が再認識されている。

診断市場成長予測（2009年—2019年）

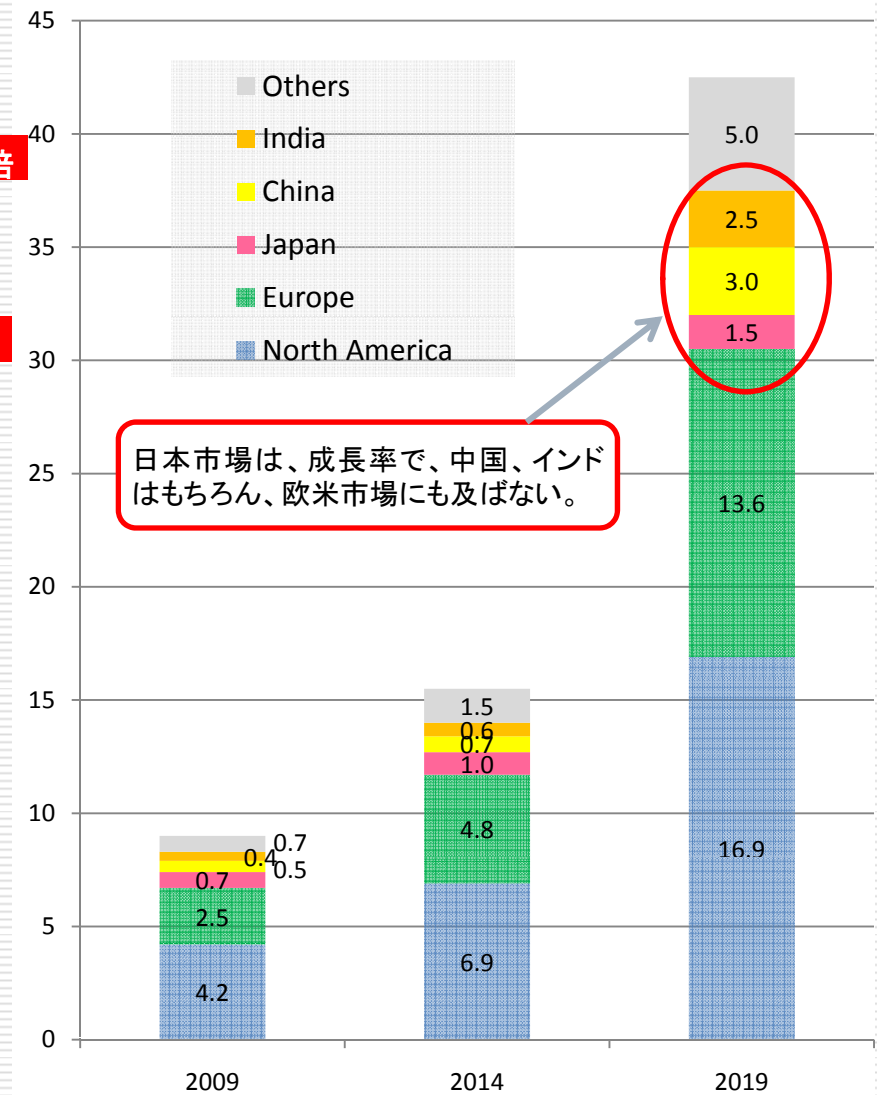


参考文献: *Jain PharmaBiotech, "Molecular Diagnostics", October 2010*

診断市場成長予測: 分子診断市場

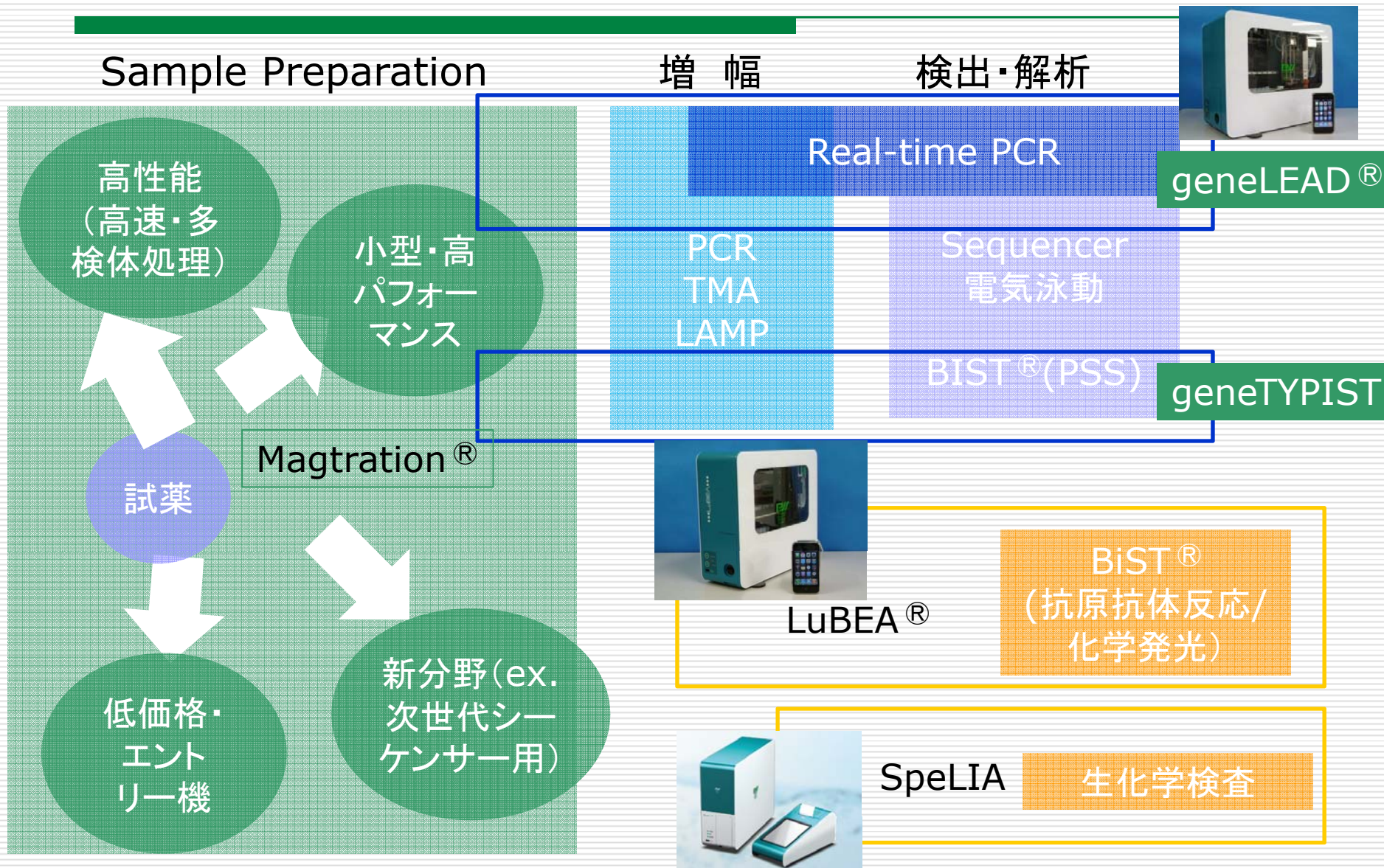


MDX市場はあらゆる領域で急成長が見込まれているが、中でも、がん検査、遺伝子検査、食品検査での伸びが大きいと見られている。



日本市場は、成長率で、中国、インドはもちろん、欧米市場にも及ばない。

マーケットとPSS事業展開



POCT対応のPSS開発機器

1. geneLEAD®

全自動遺伝子解析装置



- ・感染症ウイルス
(HIV, HBV, HCV, HPV等)
- ・遺伝子変異(薬剤投与前検査)
(K-ras, EGFR, BCL-ABL,
IL28B, CYP等)

医療現場での遺伝子検査
に対応できる小型全自動
解析装置

2. LuBEA®

全自動免疫測定装置



- ・甲状腺関連ホルモン
(TSH, T3, FT4等)
- ・がんマーカー
- ・特異アレルギー
- ・サイトカイン

診療前検査に対応でき
る小型全自動免疫装置

3. SpeLIA

小型生化学分析装置



- ・動物検査用向け
(イヌCRP, 総胆汁, NH3等)
- ・生化学検査
(γ-GTP, GOT, HDL,, LDL, 等)

ラテックス凝集から生化学
検査まで対応できる小型生
化学自動装置

1. geneLEAD[®] : 全自動遺伝子解析システム

(核酸抽出 ⇒ 増幅 ⇒ 検出工程の自動化)

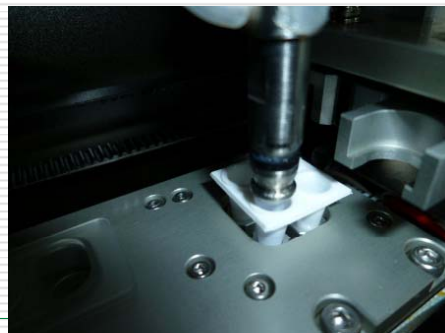
全行程を自動化した遺伝子検査により

⇒ 特別なスキルを必要とせず遺伝子検査が可能

⇒ 迅速に確定結果が得られ、適切な治療を速やかに実行できるため、感染拡大防止に貢献可能

⇒ ファーマコゲノミクスに基づき、薬効や副作用の薬剤投与前検査が可能

⇒ 個別化医療に寄与し、医療費削減に貢献



geneLEAD[®] XII

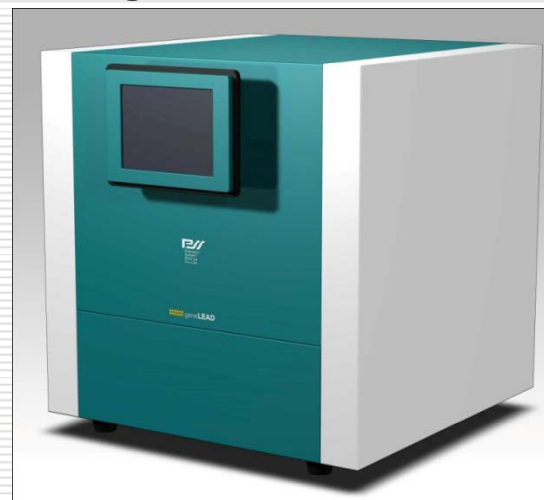
12連ノズルで処理能力アップに対応

geneLEAD



1本ノズルの1検体対応
緊急検査タイプ

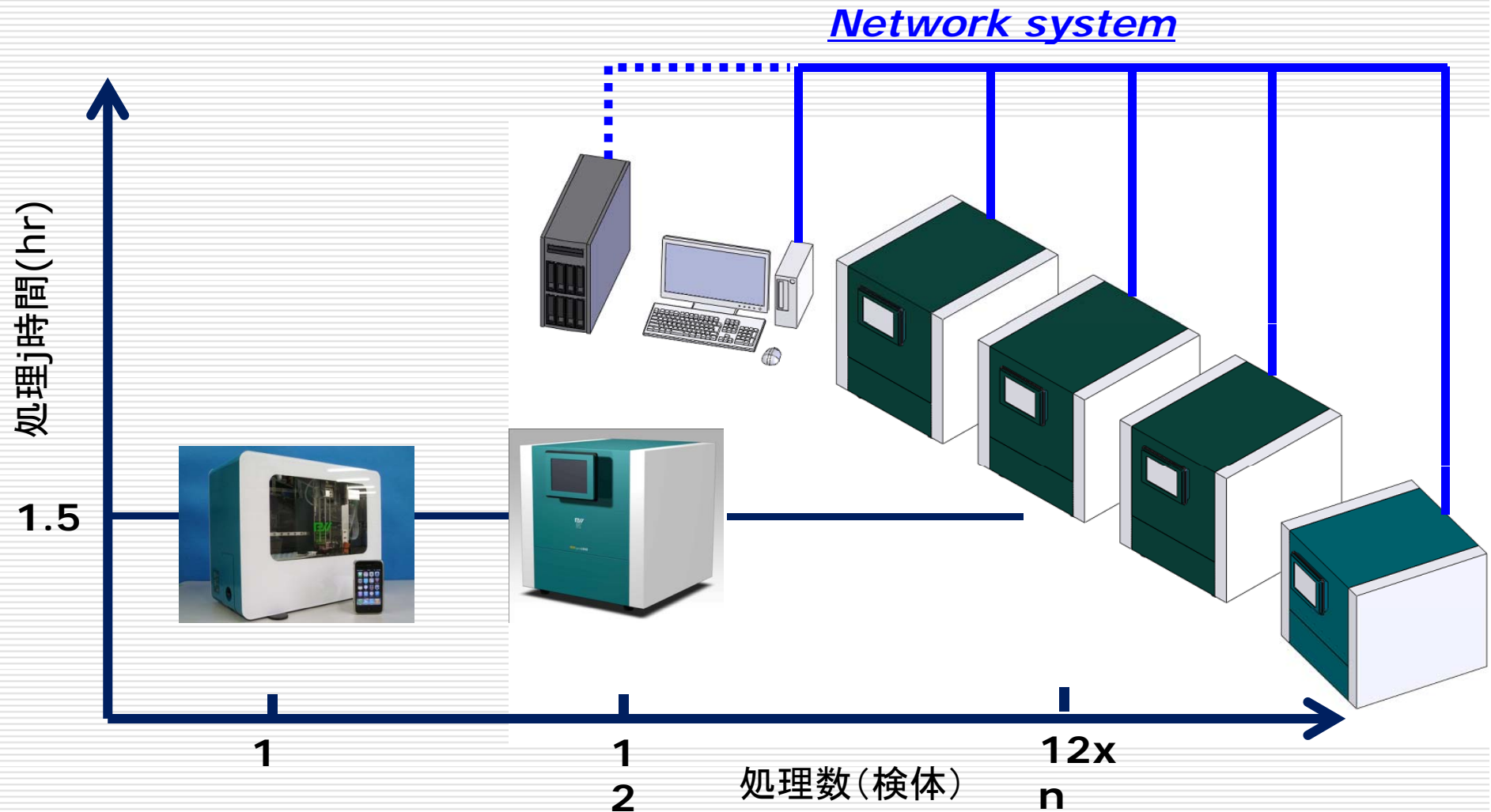
geneLEAD 12



12連ノズルで1~12検体対応

遺伝子検査の規模・ニーズに応じた拡張性

ベッドサイド～中央検査室～検査センター



LuBEA®

多項目同時測定を実現できるBIST®技術を採用した全自動免疫測定システム



応用例：特定食物アレルギー検出への応用

表示義務
7項目検出用BIST

コントロールビーズ

ポジティブコントロール

濃度 10 ppm

卵

乳

小麦

そば

落花生

えび

かに

濃度 1 ppm

ネガティブコントロール

えび・かに
検出用BIST

コントロールビーズ

ポジティブ
コントロール

濃度 10 ppm

えび

かに

甲殻類

濃度 1 ppm

ネガティブ
コントロール



LuBEA® IV

SpeLIA 小型生化学分析装置

全自動

多項目

■ 開発予定検査項目

イヌCRP、ネコSAA

A1-AG、FDP

ATIII、尿中 μ Alb

TBA、NH₃

■ 全自動

■ 省スペース

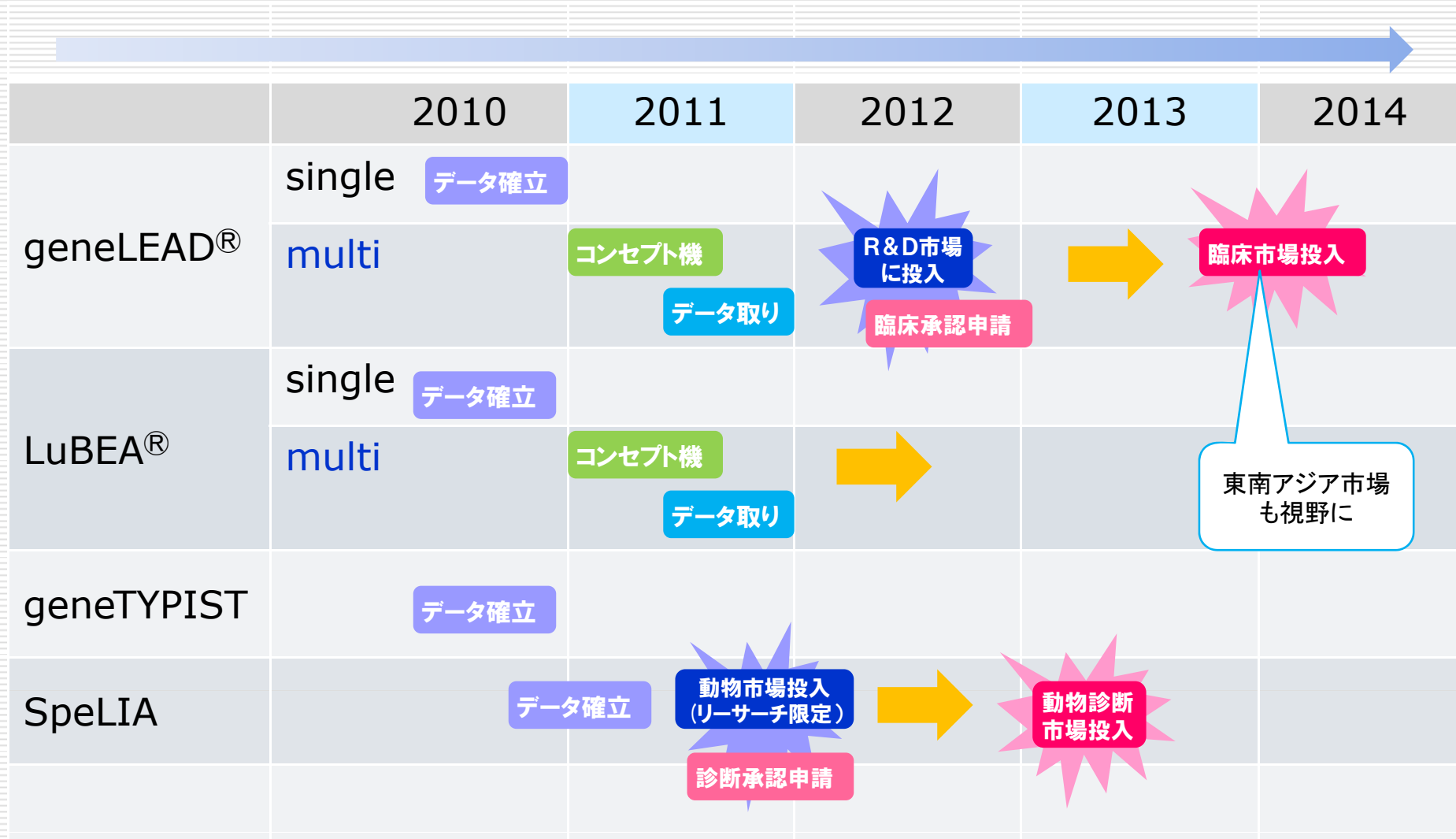
■ 2011年から市場投入

■ 多項目/多検体同時処理

4検体・1項目～4項目・1検体



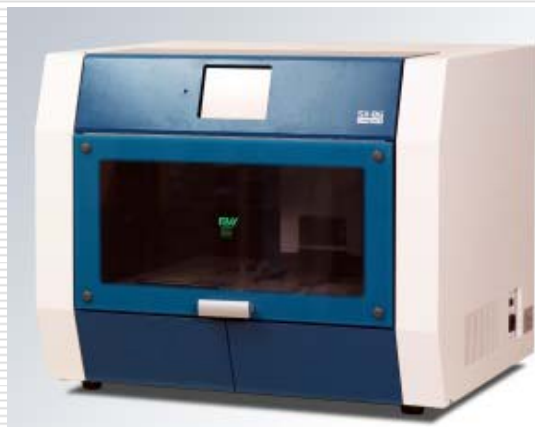
全自動解析装置の市場展開工程



多様化する市場ニーズへの対応

(1) SX-8G Compact

- 次世代シーケンサー（高速、安価な塩基配列解析機）向け、前処理自動化装置としてSX-8G Compactを投入
- SX-8G Compactの販売に関し、IntegenX社と提携
 - ソフトウェアの共同開発
 - 共同ブランド展開

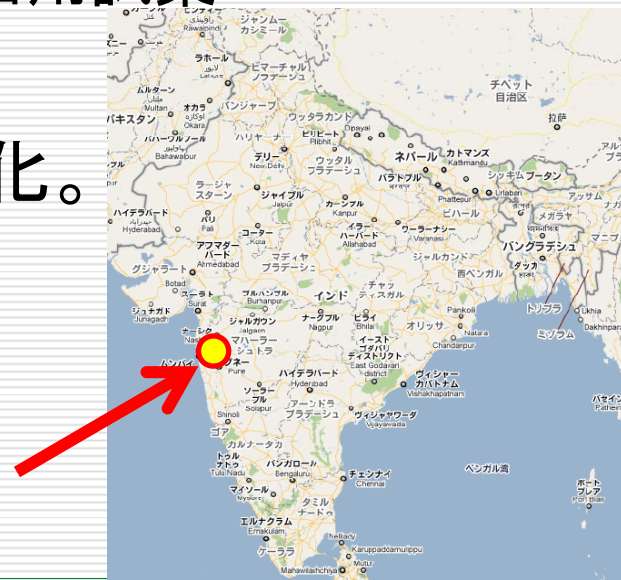


(2) 次世代シーケンサー前処理試薬開発で合意

- NorDiag社(ノルウェー)と次世代シーケンサーによる塩基配列解析向けサンプル調製試薬およびSX-8G Compact向けプロトコールの開発、試薬販売で合意。
- NorDiag社が試薬及びプロトコール開発を行い、第三者機関により性能評価を行った後、SX-8G Compactに搭載。
- PSSは次世代型シーケンサー市場に対し、
 - ①前処理自動化装置とともに、
 - ②その試薬でも参入

(3) インドで抽出試薬製造を開始

- 抽出試薬の価格競争力強化のため、インド(ムンバイ近郊)で、販売契約先(Biotron社)を通じて試薬製造を開始し、インド市場への本格参入
今回製造を開始するのは、
 - ① PSS製DNA/RNA自動抽出装置用のプレパック抽出試薬
 - ② エントリー市場向け、マニュアル抽出用試薬
- PSSが原料を供給し、インドで、インド国内市場向けに最終製品化。PSSが、試薬製造、品質管理で技術支援。品質管理評価を経て製造開始予定。



(4) DiaSorin社とLAMP法による診断装置開発

- イタリアのDiaSorin社との間で、同社の子会社 Biotrin(アイルランド)とNAT検査用診断装置の開発で合意。
- 栄研化学(株)が開発したLAMP法を搭載し、感染症などの臨床診断向けに開発、2012年後半での市場投入を予定している。
- 今回の契約は、PSSのシステム技術水準の高さの証明となるもの。
- 遺伝子診断の選択肢拡大への貢献とともに、PSSにとっても、新たな市場への進出機会となる。

本日は、お忙しいところ、PSS会社説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。また、日頃よりのPSSに対するご支援に対し、心より感謝申し上げます。

皆様のお陰をもちまして、PSSは、本年2月28日、上場10周年を迎えることができました。これまでのご厚情に対し、深く御礼申し上げますとともに、引き続きの、ご支援をたまわりますよう、何卒よろしく、お願い申し上げます。

なお、本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

2011年4月23日
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
[URL : www.pss.co.jp](http://www.pss.co.jp)

(お問い合わせは、IR・社長室まで)
電話: 047-303-4800
メール: ir@pss.co.jp